

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
38	川崎市立 稲田中学校	相沢 宏明

学校教育目標	今年度の重点目標
「基礎的能力をもつ有用な社会人の育成」 ・よき個人 ・よき社会人 ・よき職業人	○生徒の興味・関心を高め、「わかった」「できた」を実感できる授業の実践 ○一人ひとりの生徒が個性を發揮し、自己肯定感を高める特別活動の充実 ○互いの違いを認め合い、協力し合う生徒集団の育成

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 生徒の興味・関心を高め、「わかった」「できた」を実感できる授業の実践	重点目標の達成に向けて、毎週の各教科会において授業実践に関する意見交換を行った。校内授業研究会において、目標を意識した授業提案を行い、研究協議においてその理解を深めた。また、カリキュラムセンター指導主事の指導内容を、全教科で共有した。	全ての教員が共通のテーマで授業に取り組み、教科の特性に合わせて探究心を深め、主体的に学習に取り組む姿勢の育成を図った。成果と課題を共有することで、個々の教師の資質向上につなげることができた。生徒アンケートで「授業に意欲的に参加している」「授業はわかりやすい」に肯定的な回答をした生徒はそれぞれ89%、88%であり、一定の成果を得たと捉える。	継続して「すべての生徒にとって、わかりやすい授業の実践」を重点目標として、カリキュラムセンターと連携して研修の機会の充実を図る。
2 Chromebookを有効活用した授業の工夫	GS担当教諭を中心に、ICT機器の活用能力が高い教師の実践が広がり、それらを共有することで、個々の教師の授業内での活用の機会が増加した。生徒が長期休業期間中に自宅に持ち帰り、課題の作成や提出に活用する取組を行った。	Chromebookを活用し、主体的に探究する力の育成や、多様な意見に触れて学びを深める授業づくりに取り組んだ。生徒アンケートでは、「Chromebookを授業で有効に活用している」に94%の生徒が肯定的な回答をしている。	Chromebookを活用した授業づくりについて、また学習室や自宅にいる生徒へのリモートによる学習支援等について、カリキュラムセンター、情報視聴覚センター等と連携し、取組を工夫する。
3 一人ひとりの生徒が個性を發揮し、自己肯定感を高める特別活動の充実	学校行事等のねらいを明確にし、教職員で共有したうえで、一人ひとりの生徒がどのように成長して欲しいか、目標を定めて指導に取り組んだ。	教職員自己評価においては、ほぼ全ての教職員が「生徒の良さを発見し伸ばす指導・支援」が達成できたと回答している。生徒アンケートでは「学校行事に一生懸命とくれている」に93%の生徒が肯定的な回答をしている。一方で「自信をもち、自分の良さを發揮している」については77%にとどまり、自己肯定感の醸成には課題が残る。	今年度の成果を生かし、生徒たちの心の絆が深まり、一人ひとりの個性がさらに發揮される活動となるよう、それぞれの生徒に活躍の場の設定して、生徒の自己肯定感を高めていきたい。
4 自主性と責任感を育てる生徒会活動、学級活動の充実	特別活動指導部が中心となり、生徒会活動運営の指導に取り組んだ。委員会活動、係活動においても生徒一人一人の役割を明確にし、自主的に行動する意欲や責任感の育成に全教職員で取り組んだ。	生徒アンケートで「自分の役割に責任をもって取り組んでいる」と回答した生徒は91%、「子どもが責任をもって係、委員会活動に取り組んでいる」と回答した保護者も91%である。体育祭、文化祭、合唱コンクールなどの行事で、多くの生徒が主体的に活動することができ、その様子を保護者の方々に参観していただいた結果が数字に現れたものと捉える。	継続して、生徒一人ひとりが自身の役割を自覚し、責任感をもって取り組むことで、稲田中学校の一員としての自己有用感を高めていきたい。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
5 一人ひとりの生徒の立場に寄り添う適切な支援、公平な指導	年間3回の教育相談アンケートの実施や、教育相談週間を設けるとともに、生徒指導担当と支援教育コーディネーターより「日常的な生徒との対話に基づく、注意深い観察と生徒理解」を定期的に指導することで、生徒の変化を敏感に察知する体制を整えた。	生徒アンケートにおいて「教師は適切な助言や支援をしている」、「困っているときに教師は寄り添ってくれる」「教師は正しく公平に生徒を指導している」に対して、それぞれ89%、89%、91%の生徒が肯定的な回答をしている。	生徒一人ひとりの悩みや困り感、課題について担任が的確に把握し、学年、学校全体での情報共有を行い、組織的に支援に取り組む体制づくりをさらに推進する。
6 互いの違いを認め合い、協力し合う生徒集団の育成	学級活動、道徳指導、総合的な学習の時間等を通じて、人権尊重教育や多様性を理解する学習に取り組んだ。また、学校行事等を通じて協調性の育成に取り組んだ。	生徒アンケートにおいて「相手の気持ちを考えて接し、良い友人関係を築いている」に94%の生徒が肯定的に回答している。その一方で、心無い言動で友人を傷つけてしまう事案もあり、その都度、一人ひとりの生徒と対話して解決を図った。	生徒会活動等を通じて生徒自らが主体となって、互いを尊重し合う生徒集団づくりに取り組むことができるよう支援する。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
3月19日に学校運営協議会を開催し、学校関係者による評価を行う。	今年度の重点目標を教職員全体で共有し、一人ひとりが高い使命感をもって業務遂行に努めた結果、多くの生徒、保護者から良い評価をいただくことができたと捉える。この成果を次年度につなげ、課題と思われる事項の改善に、全教職員で力を合わせて取り組んでいきたい。